

## 発達障害の児童・生徒に対する家族・地域・学校の協働について考える

発達障害や診断がなくともその特性を高く有する児童・生徒の支援においては、家族・地域・学校の協働が不可欠です。発達障害者支援法の施行により、発達障害の早期発見、発達支援、学校教育における支援、就労支援、発達障害者支援センターの設置など、家族・地域・学校が協働するための仕組み・制度作りは急速に進んだものの、2017年の総務省からの文部科学省・厚生労働省への勧告にある通り、法の理念の実現には、まだ課題が多い状況です。

本研修会では、これらの課題を整理するにあたり、まず自閉スペクトラム症や注意欠如多動症といった発達障害の特性がどのような機序で生じるのか、脳の非定型的な発達と関連付けながら学びます。この特性理解をベースとして、改正発達障害者支援法に明記された『社会的障壁』の意義について理解を深め、発達支援における家庭の役割、家族支援のあり方について考えます。

次に、近年整備されつつある発達特性や支援の必要性をアセスメントするためのツール(感覚プロファイル、Vineland-II適応行動尺度等)について学び、家族・地域・学校の協働、時間的・空間的に切れ目のない支援の実現に向け、いかに客観的指標が重要となるか考えます。

最後に、学校との協働による心理的・教育的支援に焦点を当てます。特に発達障害の特性を高く有しつつ通常級に所属する子どもたちにとって重要となる学校環境、学校風土について取り上げ、講師のこれまでの実践を紹介しつつ、家族・地域・学校と連携した環境面へのアプローチ、その具体的な方法について学びます。

### 記

**講師**：足立 匡基（明治学院大学）

**日時**：【A. ライブ配信＋録画視聴】2024年3月10日（日）10:00～16:00（昼食休憩1時間程度）  
【B.録画視聴のみ】2024年3月26日（火）0:00～2024年4月26日（金）23:55

**定員**：【A. ライブ配信＋録画視聴】100名  
【B.録画視聴のみ】は人数制限無し

**内容**：自閉スペクトラム症、注意欠如多動症の脳の非定型発達と特性との関わり  
発達障害者支援法の改正と社会的障壁  
総務省の勧告にみる現在の発達障害児・者支援の課題  
発達障害児・者臨床におけるアセスメントツール  
学校との協働－発達障害特性を高く有する子どもの学校適応を支える環境因  
発達障害児・者支援における家族・家庭の役割と家族支援

**申込期間**：【A. ライブ配信＋録画視聴】2024年1月10日（水）0:00～3月4日（月）23:55 締め切り  
【B.録画視聴のみ】2024年1月10日（水）0:00～3月25日（月）23:55 締め切り

**参加区分と参加費**：【A. ライブ配信＋録画視聴】と【B.録画視聴のみ】は同一料金です。

- ①日本家族心理学会会員正会員、家族心理士・家族心理士補・家族相談士の有資格者：8,000円
- ②学生会員、非会員の学生（大学院生・学部生）：5,000円
- ③一般参加者：10,000円

### 研修ポイント

- \* 家族心理士・家族心理士補・家族相談士；2ポイント
- \* 臨床心理士；2ポイント（申請予定）
- \* 研修証明書は、録画視聴期間終了後の受講後アンケートへの回答が必須となります。アンケート回答期限以降は発行できませんのでご注意ください。